

安全性の追究

折角、親しまれている除草剤が、薬の事故のために、心ならずも消えゆくようなことがあっては、まことに残念なことである。

ところで、いまでは砂糖が豊富に出廻っている甘味であるが、戦後の少ない時代には実験室でサッカリンを合成して喜ばれたものである。ズルチンやチクロも、戦後久しく使われた。チクロを開発した米国の企業は、安全性の評価に100万ドルを投じたという。それでも、その後の研究の進歩と試験の繰り返しによって、まずズルチンが、ついでチクロが使用を禁止された。一番歴史の古いサッカリンは、いまなお論争を繰り返しながらか、条件付で使用が認められている。

人工甘味料には、確かに栄養がない。甘さ強いということから、食品の隅々まで使われると、国民の健康上問題が残るだろう。しかし、砂糖を補完するためには、国民生活上欠くことができないが、まだサッカリン以上のものは見当たらないという。

除草剤は、除草の労力を補助するところから出発して、その切れ味の良さと安定した供給のお蔭で、何時の間にか、除草のすべてをカバーするまでになった。そして、人工甘味料のようなことのないように、安全性も厳しく評価するようになっている。

頭脳と時間と経費を傾注して開発された除草剤が、心ならずも消えてゆくといったことのないように、事故があればその原因を充分に究明して欲しいものである。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会技術顧問 鈴木照磨〕

目次 (第11巻第6号)

第6回アジア・太平洋地域雑草学会 会議参加雑感記……………	2
<日本植物調節剤研究協会 中山治彦>	

林野の雑草防除について……………	6
<林業試験場造林部 早稲田 収>	

1. 林業における雑草防除作業……………	6
2. 林業における雑草防除の特質……………	7
3. 防除方法の現状と今後の見通し……………	7
1) 下刈り作業の機械化……………	7
2) 林地除草剤の利用……………	8
A. 現状と問題点……………	8
B. 現在事業化されている薬 剤と使用法……………	8
3) 雑草木の生態的制御(防除)……………	11
A. 非皆伐施業と雑草木の防除……………	11
B. 皆伐施業における生態的 防除……………	12

除草剤の水田における挙動と除草活性……………	13
<日産化学工業株式会社 河村雄司>	

ま え が き……………	13
1. 土 壌 要 因……………	14
2. 植 物 要 因……………	16
3. 気 象 要 因……………	19
4. 人 為 的 要 因……………	19
あ と が き……………	26

外 国 文 献 抄 録……………	27
------------------	----

植調協会だより……………	29
--------------	----